

Back Number

本論文は

世界経済評論 2024 年 5/6 月号

(2024 年 5 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF



富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

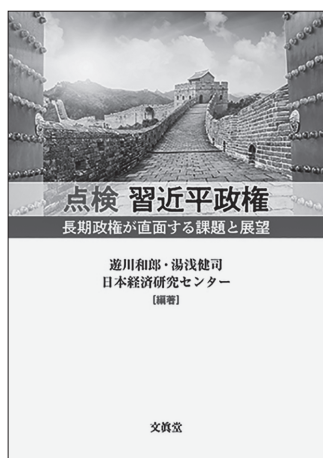
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン販売

点検 習近平政権 ：長期政権が直面する課題と展望

名古屋外国語大学教授 真家 陽一



〔編著〕

遊川和郎（ゆかわ かずお）

亜細亜大学アジア研究所教授

湯浅健司（ゆあさ けんじ）

日本経済研究センター中国研究室長

日本経済研究センター

〔発行〕文眞堂、2023年7月

〔判型〕A5判、208頁

〔定価〕本体3200円＋税

中国は国土面積が日本の約26倍、人口が11倍超という大国であり、極めて多様性に富む国だ。しかも、2020年の新型コロナウイルスの感染拡大以降の直接交流の大幅な制限が実態のわかりにくさに拍車をかけている。

かかる制約の中で、中国の実態を正確に捉えるには、個別の事象に惑わされず多角的に分析していく視点が欠かせない。そうした観点からお勧めしたいのが本書である。本書は日本経済研究センターが実施した習近平政権の課題と展望に関わる研究プロジェクトの成果であり、中国経済の研究で活躍されている亜細亜大学の遊

川和郎教授を座長に、政治、経済、産業、企業、社会保障、台湾問題などのテーマに関して、ベテランの専門家や新進気鋭の学者まで多彩な方々が、研究会での議論や意見交換を踏まえて執筆している。

2022年10月に開催された中国共産党第20回全国代表大会（第20回党大会）において3期目続投が決定し、「一強体制」を盤石にした習近平政権に対しては「米中新冷戦」「戦狼外交」「統制強化」「不動産不況」「台湾有事」といったネガティブな話題が連日報じられている。本書にもそうしたワードは出てくるが、各論考はいずれも悲観論でも楽観論でもなく、客観的な立場から見た中国を論じている。

政治的には、政策の予見可能性の低下や米国との対立長期化などから、一党独裁以上に個人独裁の脆弱性が増す恐れがあるとの見解が示されている。他方、経済的には、日本にとって中国市場は大きな収益源であることを強調した上で、ビジネス環境の厳しさが増す中国では、正しい情報と実態を把握した上で戦略を練る必要があることも指摘されている。

中国のGDP（国内総生産）は2022年に日本の4倍を超え、今後はその差がさらに拡大する可能性も高い。加えて、中国の大国意識は高まり続けており、日中関係の舵取りはますます難しくなっている。とはいえ、日本にとって中国は2007年から2023年まで17年連続で最大の貿易相手国であり、経済的には切っても切れない関係にある。

こうした中、拡大する中国と戦略的な視点から向き合っていくには、バイアスをかけずに中国の実態を客観的に評価していくことが重要になっている。中国はとかくイメージで語られがちな面もあるが、本書は豊富な資料・統計データを基に、客観的な分析を試みている。中国の実態を冷静に見極めたいと思っている人にはぜひ一読をお勧めしたい。

（まいえ よういち）